

平成29年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	陸上植物の性分化：遺伝的頑健性と可塑性のメカニズム
研究代表者	河内 孝之 (京都大学・生命科学研究科・教授) ※平成29年6月末現在
研究期間	平成29年度～平成33年度
コメント	<p>本研究は、陸上植物の進化の基部に位置するコケ植物であるゼニゴケを用いて陸上植物に共通の性決定メカニズムを統一的に理解しようとするものである。具体的には、応募者らが見いだした転写制御因子とメス化抑制因子の機能に着目して、性分化の頑健性と可塑性の分子基盤を解明しようとする意欲的な研究である。両因子の内、メス化抑制因子についての知見は未発表であることから、本研究の実現可能性が懸念されたが、応募者らはこれまで、ゼニゴケのモデル化において国際的に高い評価を得ており、十分に研究遂行能力があることから、成果が期待できる。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>